第１回　宇野港宇野地区中長期ビジョン検討会　議事要旨

○ 日時　　令和７年３月19日（水）10:00～12:00
○ 場所　　玉野産業振興ビル3F　技術研修室
○ 出席者　出席者名簿のとおり
○ 議事要旨

１．　開会

２．　検討会の設置趣旨等について

・　事務局から検討会の設置趣旨及び規約（案）について説明し、了承を得た。
・　検討会規約第４条第１項に従い、座長の選任が行われ、橋本委員が座長に選出された。

３．　議事

（１）　宇野港の現況について

・　事務局から宇野港の現況について説明。

（２）　意見交換

（宇野港航路誘致推進協議会　野崎委員）

・　直島はすでにアートの観点で世界中から注目されており、宇野港宇野地区はその門前町であるという意識で議論を進めていけばよいのではないか。
・　クルーズ船の旅行者は、イベント的なおもてなしよりも、地域の見所に足を伸ばしてみたいと思うものなのではないか。地域一体となり、利用者の立場に立ったマーケティングを行うことを考えた方が良いと思う。
・　宇野地区は倉敷市へのアクセスが脆弱であるため、児島と連携して倉敷市とのアクセスをしっかり繋ぐなどの協力が必要ではないか。

（宇野港港運協会　石田委員）

・　玉野市や直島の住民の声をきいて開発を進めていってほしい。
・　倉敷市とのアクセスが限られており、公共交通機関の整備がなかなか進んでいないと感じる。

（宇野港港運協会　宮原委員）

・　宇野港は「直島に行くための港」になってしまっている。「この港に行ってみたい」と思えるような、目的地としてたくさんの人が賑わう港になるべきと考えており、そのためには、第１ふ頭から第３ふ頭まで含めた全体的な開発が必要だと思う。
・　宇野港へのJRの本数が少なく、空港からの乗継回数も多く不便。
・　岡山側からも直島へ渡れるということを県が積極的にPRしてほしい。
・　宇野港の利用者には欧米の観光客が多く、そのような客層に刺さるような開発をしていけるとよい。
・　神戸港のようにクルーザー等が寄港できる桟橋があれば、海からのアクセスも強化できるのでは。

（宇野港フェリー協議会　堀川委員）

・　人口が減っていくことを考えると、中長期ビジョンのターゲットは日本人国内旅行者なのか訪日外国人旅行者なのかを定めなければならない。
・　宇高連絡船があった時は、利用客は通過しているだけであり、消費として取り込む意識がなかった。

・　岡山から直島に渡るための通過点にとどまらないよう、宇野港にシンボルを作り、玉野市で消費が生まれるようにする必要がある。

（宇野港魅力向上委員会　伊達委員）
・　港の将来像となるイメージをまず成立させた上で、こういう施設がいる・いらないという話をすることが重要ではないか。また、宇野に暮らす住民の生活を合わせて議論すべきであり、何か新しく作るにしても住民が愛着を感じるものであってほしい。
・　外国語を併記した案内板などの設置を検討してほしい。英語も併用した「港をきれいにしよう」という看板を 7 か所建てている。
・　瀬戸内国際芸術祭に合わせて運航する臨時のバス路線は、祭典期間終了後も地域住民が日々使えるようなものになってほしい。
・　宇高連絡船の記念館ができるとよい。
・　フェリーで直島を経由して高松に行く場合の乗り換えのダイヤが悪い。

（うの港13　山本委員）
・　小型船の乗り場とフェリーの乗り場が離れており、観光客に対して不親切に感じるため、一か所にまとめるか、案内板を掲示してほしい。
・　月極駐車場を移動して景観をよくしてはどうか。
・　コインロッカーが宇野駅の改札内にしかないため、大きな荷物を預けることができる 24 時間使用可能な有料のコインロッカーを宇野港近辺に設置してはどうか。
・　標識や建物は統一感を大切にしてほしい。

（岡山県バス協会　平本委員）
・　宇野港は鉄道・バス・船の交通結節点であり、観光客の乗り換えに際し不便をかけないよう、乗り換えの待ち時間に立ち寄れるスポットを案内するなど、情報発信が重要。
・　また、一度来て終わりではなく、次来た時にはこっちに行ってみようと思えるような環境整備が必要と考える。
・　交通事業者として、倉敷市方面や岡山空港へのアクセスなど、交通の強化をしっかりと考えていきたい。

（玉野市観光協会　坂井委員）
・　現状、駅から来た人には地元の観光地を案内できているが、船から来た人には十分に案内できていないため、第１緑地を活用して、どの交通機関を使う方にも対応できる観光案内所やお土産販売所を備えた複合施設があるとよい。
・　宇野港の魅力を知っている人が少ない。宇野港を目的地として考えてもらうようにする必要がある。

（玉野商工会議所　加藤委員）
・　宇野港はポテンシャルが高いと言われているが、そこから何も進んでいないと思う。どうやったら実現できるかをしっかり考えていく必要がある。
・　宇野港には大きな物流拠点港にないあたたかみや安心感があり、セールスポイントになると感じる。
・　商店街やたまの湯など、徒歩で観光地を周遊できる点が魅力。徒歩圏内の観光地をもっと宣伝していくとよい。また、宣伝の仕方も考える必要がある。
・　宇野港は他の交通機関への乗り換え地点。乗り換えの待ち時間に訪れることができる場所が必要。

・　渋川のマリン水族館のポテンシャルをもっと伸ばしていきたい。
・　私たちにとっては当たり前な景観が観光資源となることにもう一度目を向けてほしい。開閉橋など、宇野が持っているものにもう一度目を向け、そこを強化していけたらと思う。
・　岡山空港と宇野をつなぐバスも増やしてほしい。

（玉野商工会議所　竹内委員）
・　宇野港は直島への玄関口という側面があると思っており、スタート地点というイメージがある。
・　アクセスの不便さを完璧に解決するのは難しいのであれば、「不便だけど行きたい場所」にしていく必要がある。
・　生活している方のコンセンサスを取りながら開発していくことが大事。
・　ビジョンを作る、方向性を決めるだけでなく、いかに実行するかもセットで考えてほしい。

（玉野商工会議所　古山委員）
・　玉野市の人口はピークから減少しているが、その間、何も手を打つことができていなかった。
・　今後の検討の方向性を考える上では、観光資源を活用した持続可能な開発をテーマに掲げるとよいのではないか。観光で経済を回す仕組みを作ることが重要であると考える。
・　宇野の風土を考えた際に、土はあっても、風：観光客を受けて止めてこなかったのではないか。
・　地元の高校生と話をする機会があるが、将来もこの場所で生活していこうという意識が弱いと感じている。

（JR西日本　栃折委員）
・　ホテルや飲食店などを今よりも充実していくことが必要だと思うが、供給だけいきなり増やすことはできないと思うので、新たな需要を生み出すことや、持続可能性も合わせて考えていく必要がある。
・　岡山から直島に行くルートの認知度は高松ルートに比べてまだまだ低い実感があり、JRとしても新幹線で岡山に来て、そこから列車で宇野へ向かうルートを今後訴求していきたいと考えている。
・　瀬戸内国際芸術祭の開催に合わせ、1 日 2 便の増便（臨時）を行った。来年度以降については今年度の利用状況を踏まえて判断していくことになるため、鉄道の利用促進にもご協力いただきたい。

（玉野市　産業振興部）
・　玉野市で経済を循環させるために、できるだけ観光客の滞留時間を増やしたい。
・　玉野市として、観光産業を持続可能な形にしていくことが重要。
・　瀬戸内国際芸術祭2025に向けた取り組みについて説明。

（岡山県　土木部港湾課）
・　宇野港宇野地区は人流が中心ではあるが、物流も存在する。
・　宇野地区における物流と人流の分担をどのように整理していくかも今後の課題。
・　今回のご意見が、宇野港の今後のあり方をどのように変えるかという議論につながっていけばと思う。
・　宇野港緑地整備事業（栄れ映れ UNO 緑地整備事業）について説明。

（中国運輸局 観光部観光地域振興課）

・ 地域・日本の新たなレガシー形成事業について説明。

（石﨑委員）

・ 大型クルーズ船も大切だが、頻度が低くそれだけだと需要に波がある。小型クルーズ船・フェリーも含めて宇野港エリアの需要が平準化するようなニーズを作り出していく方が良い。
・ 住民が日ごろから行きたいと思える場にすることが需要の平準化につながり、宇野地区の持続可能な港のまちづくりにとって大切。宇野港近くのみやま公園に何回か行ったことがあるが、安全でのびのびした空間があるから人が多く集まる。そのような空間になっていくことが大切。
・ 宇野駅から港への動線において、駐車場が多く、海が見えない。景観を生かし切れていないと感じており、車と人が滞留するエリアを分ける必要がある。
・ 宇野地区エリア内外で観光客の自由な回遊性を確保することが大事であり、例えば欧州のような電動キックボードや自転車の利用などができるとよいし、これらが島でも利用できれば、島の二次交通手段にもなりうる。

（橋本座長）

・ 宇野港は、移動1時間圏内に岡山・倉敷といった大都市が存在し、海側にはアートの観点から世界的に注目されている直島などがある。宇野港のポテンシャルが高いことは間違いないが、それを活かせていない。
・ まずは、玉野市や岡山県内の住民が、普段から何度も訪れようと思うことのできる場所にしなければならず、そうでなければ訪日外国人旅行者も宇野港で時間を使う意識が芽生えない。
・ 子供連れにとっては、食べるもの・歩く場所がないと困る。宇野港周辺は観光で訪れるスポットが離れ離れに存在しており、歩きやすさに欠けていると感じる。Walkable な空間がまちづくりにとって重要。宇野港周辺をどのように歩きやすく、観光しやすい場所にしていくかが課題。

（3） 今後の進め方について

・ 事務局から今後の進め方について説明。

4. 閉会